

わかやま母親通信

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

第50号 2017年1月28日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール:w_haharen@wkn.or.jp

私たち母親・女性は、「生命をおびやかすこと」「くらしを破壊すること」「自由を抑圧すること」を絶対許しません。「だまされない!」「あきらめない!」「だましていない!」

2015年9月、道理も正当性もない憲法違反の「安保法制(戦争法)」が強行採決されましたが、この一年は「戦争法廃止」の200万署名を大きく広げ、「立憲主義、民主主義を守れ」と、全国各地の取組みが前進してきた年でもありました。今後一層、自公政権+維新の会による強権的反動政治や国民に忍従を強いる政治が強まるでしょうが、私たちは、心ある人たちと手をつなぎ、粘り強く地道に母親運動を進めていきましょう。

第62回和歌山県母親大会 in 紀の川市

「時代に合った」「時代に求められる」母親大会をめざして

今年の県母親大会は、5月21日(日)、紀の川市；貴志川中学校、貴志川生涯学習センターを会場として開催されます。

現地となる那賀(紀の川市・岩出市)では、昨秋より準備を始め、現地事務局を中心に、団体や個人への協力の呼びかけや自治体・教育委員会への後援依頼などに動き出しています。現地実行委員会は、雪の日と重なった1月24日を27日(金)に延期して立ち上げられました。県母連からは、横山会長と西川事務局長が出席しました。予定される20分科会中、現地在責任を持つことになった9分科会について、早速それぞれ魅力ある分科会にしようと話されました。今後、幅広い宣伝と参加の呼びかけに取り組んでいくことも確認されました。

和歌山県実行委員会は、1月28日(土)に立ち上げます。今の情勢を敏感に受けとめることはもちろん、初めての方でも参加しやすい、「時代に合った」「時代に求められる」母親大会をつくり上げていきたいと思っています。

全体会講師 宇都宮健児(うつのみやけんじ)氏【弁護士】

1968年東京大学在学中に司法試験合格。83年に自分の法律事務所(後に、東京市民法律事務所)を開設する。2010・2011年度日本弁護士連合会会長を務める。12年14年の2回、「希望のまち東京をつくる会」から支援を受け、東京都知事選に立候補し、脱原発、福祉の充実、格差是正などを訴えた。

多重債務・消費者金融問題を多く取り扱い、困っている人の弁護に奔走している。反貧困ネットワーク代表世話人、年越し派遣村名誉村長なども務めている。著書多数(次号で)。



講師 宇都宮 健児 氏

和歌山県の地方(郡市)・地域連絡会

和歌山県の

地方(郡市)・地域連絡会

和歌山県の母親運動の中心は、各郡市母親連絡会です。和歌山県母親大会の成功を支え、各郡市母親大会を組織します。

- ・ 伊都橋本母親大会連絡会
- ・ 那賀母親大会連絡会
- ・ 和歌山市母親大会連絡会
- ・ 海南海草母親大会連絡会
- ・ 有田郡市母親大会連絡会
- ・ 日高郡市母親大会連絡会
- ・ 西牟婁母親大会連絡会
- ・ 東牟婁母親大会連絡会

各地域の要求運動を大切にし、地域連絡会の組織づくりを展望します。

民主団体や労働組合(女性部)は、県・地方(郡市)・地域母親連絡会に加盟し、それぞれの独自運動を展開しつつ、統一的に母親運動をつよめます。年一回の母親大会に要求と運動を持ち寄り交流します。

また、個人でも連絡会に加盟し、母親運動に参加することができます。

(二〇一四年一部改正)

武器はいらない 核もいらない **12. 8母親・女性の平和行動**

一「殺さない権利」を保障する平和憲法で、ずっと戦後を続けたい!

県下各地で、母親・女性たちがさまざまな平和行動に取り組み、42 行動で 8700 枚を配布しました。「朝、商店街の開店を待ちかねてお店や買い物客に」「午後、大きなスーパーマーケット前で」「仕事が終わってから集まり、3 か所に分かれて」「半日かけて、地域を移動しながら…終了後の昼食会が楽しかった」「大きな団地へ手分けしてポストイン」など、地域の実情に合わせて赤紙を配布しながら、『戦争放棄』の平和憲法は世界の宝」「ずっと戦後の日本で」「戦争法は今すぐ廃止」「戦闘状態の南スーダンへの自衛隊派遣は中止せよ!」と訴えました。和教組や和高教の女性部などは、各職場で女性組合員に赤紙を送付し、新婦人でも、地域によって新婦人新聞に折込みをしたりしてきました。赤紙を使って学習会をする地域もありました。

この日、和歌山市では、11:00 から県母連が国賠同盟と一緒に、JR 和歌山駅前前で 300 枚の赤紙を配布しました。バスから降りてきた高校生の集団に、マイクで優しく呼びかけたり、「おばちゃんたちも頑張るから、若いみなさんも日本と自分の未来を考えて」と話しかけたりして渡しました。市役所前では、11:30 から和歌山市の人たちが道行く人に配布しました。「赤紙知っている。南スーダンへの派兵のことも…」と話す高校生と対話をしました。

11/15(火) 32 項目の要求で、母連対県交渉

今年、県大会を皮切りに各郡市大会でも、「県への子ども医療費助成の中学校卒業までの拡充を求める」署名運動をしてきました。11/15 段階で合計 887 筆を提出し、実現を迫りました。担当者の回答は、「市町村の独自政策として就学前までを助成」と「国へ制度実現を要請」といった例年と変わらないものでした。その後、国の動きとして、「就学前までのペナルティ廃止」のニュースが新聞に載りました。全国的な運動の結果、少しだけ前に進んだと思います。

今後、県会議員さん方にも直接要求を聴いていただく機会を作るよう働きかけるなど、これからもいろんな方法で要求実現の取組みをしていきたいと思えますし、今年も県大会等で署名運動に取組みたいと思えます。

他に、歯科技工士不足の問題やカジノ法案反対などの要求を突き付けました。

和歌山県知事 仁坂 吉伸 様

子ども医療費助成の中学校卒業まで拡充を求める要望書

子どもは病気にかかりやすく、抵抗力が弱いため重症化することも多く、子どもの病気の早期発見・早期治療は大変重要です。親の収入に左右されることなく、どの子も安心して必要な治療を受けられる医療費無料制度の拡充は、大きな子育て支援になります。義務教育終了時までの医療費無料化は、多くの親たちの切なる願いです。

県下の多くの市町村で、親たちと地域住民のこうした要請を受け止めて、中学校卒業までの医療費無料制度を実施していることは嬉しい限りです。

和歌山県は、現在、「乳幼児医療費助成」として、県下の自治体に就学前までの助成を実施しています。かつて、この制度が実現した時、本当に喜ばしく感じました。

そもそも医療制度は、直接、いのち・健康に関わるものです。子どものいのち・健康に関わることは、市町村で格差なく、県下のどこで育っても、等しく大切にされなくてはなりません。大多数の市町村が無料制度化を実現してきている今こそ、県の制度として助成の対象年齢を拡大することが重要だと受け止めていただけないでしょうか。それによって、市町村の医療費の負担軽減に確実に繋がるとともに、地域ごとの特徴ある子育て支援制度に予算を組むことをより可能にできると思えます。

和歌山県は、人口減少が深刻に進んでいる県です。もっと誰もが住みやすく、子育てがしやすい県となる施策を強く望みます。

以上の趣旨から、次の事項を要請します。

【要 望 事 項】

- 一 県として、子ども医療費助成を中学校卒業まで拡充することを求めます。